

保存園シリーズ No.3

林木育種センター東北育種場の保存園の現況

林木育種センター 東北育種場 大月敏彦・飯野博志

東北育種場の保存園は岩手県滝沢村に約24ha(本場)、山形県東根市に約9ha(奥羽増殖保存園)合計約33haとなっています(表-1)。

この保存園の中でも特徴的なものを今回取り上げてみました。

表-1 保存園の現況

2002年3月末現在			
場	所	面積(ha)	系統数
本場	育種素材保存園	14	1,500
	遺伝資源保存園	10	1,100
奥羽	育種素材保存園	6	900
	遺伝資源保存園	3	300

1 本場

【遺伝資源保存園】

馬ノ神岳カラマツの遺伝資源保存園(写真-1)と早池峰山のアカエゾマツの遺伝資源保存園(写真-2)についてご紹介します。



写真-1 馬ノ神岳カラマツの遺伝資源保存園

馬ノ神岳カラマツは日本国内に天然で自生する北限のもので、宮城県蔵王馬ノ神岳頂上に隔離分布しています。

1932年の発見当初は30個体が自生

していましたが、現在では11個体まで減少しています。

当場にある遺伝資源保存園では1976年から増殖・保存を試み、つぎ木によって増殖されたクローンが現在15個体122本保存してあります。

また、1995年に現地の着果が豊作であった際に採種し養苗した実生家系苗木も、2001年に自生地へ生息域内保存(里帰り)するとともに、当場内及び自生地と環境条件の似た箇所に生息域外保存しています。



写真-2 早池峰山アカエゾマツの遺伝資源保存園

早池峰のアカエゾマツは国の天然記念物指定を受けているもので、日本国内のアカエゾマツ自生南限地になります。

馬ノ神カラマツと同様に個体数が年々減少してきており、早急な遺伝資源の保存が求められていたものです。

当場では台風による土石流跡地に天然更新した稚樹から1995年に材料を採取し、

クローン増殖及び遺伝的多様性の調査を行いました。

現在では32クローン52個体を保存しており、万が一、現地の個体が滅失してしまった際には、保存園内から採種し再度のクローン増殖により里帰りさせることも可能となっています。

【育種素材保存園】

ヒバ精英樹・特殊個体育種素材保存園(写真-3)についてご紹介します。この保存園には青森県内から選抜されたヒバの精英樹及び特殊個体(樹肌良等)を保存しています。ご存じのように「青森ヒバ」は「日本三大美林」の一つに挙げられており、その中



写真-3 ヒバ育種素材保存園

でも成長が良いものと、表現形が良いものを選抜・保存していますので、今後のヒバ造林にも役立つものと考えています。

また、ヒバについては精英樹が少なく、今後選抜・保存していく計画となっています。

